

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	NPO法人アップルフィールド りんご園	公表日	6 年 11月 27日
------	---------------------	-----	-------------

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	12		事業所のカリキュラムに応じて、利用定員を制限している。利用者が集中しないように午前午後に分けています。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	12		多めに人員配置をしています。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	12		こども達が混乱しないように、集団指導室は、1つのカリキュラムにつき1つのテーマ・機能を心がけている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12		はい。おもちゃの消毒、トイレの消毒をがんばっています。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12		はい。個別指導室を活用して、発達に応じた環境を提供しています。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	12		業務改善は職員みんなで取り組んでいます。個々の利用者について、みんなで意見を出し合って改善活動をしています。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12		保護者の意向等は重要な業務改善のヒントとなるので、普段からコミュニケーションを図り意見を改善活動に活かしています。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12		職員とは意思疎通を普段からはかるように努めています。風通しが良い事業所になるように努力しています。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	12		第三者委員の視点もとり入れて改善活動をがんばっています。	職員の教育については、怠ることがないように常に向上心を組織全体で持ち続けること。単なる題目にせず、たゆまずに実践する。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12		資料、動画などを使い、スキマ時間やまとまった時間をとり、資料の読み合わせ、ディスカッションをしています。	適切なインターバルをとって、復習を継続していくこと。療育分野の研究は終わりがなく深いので、より研修の質を高める。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12		リトミック、茶道、フラダンスなどは、予約制にして公表している。支援目的とプログラムがリンクするように内容を工夫している。	療育実績を蓄積し資料を作成共有化して、事業所全体の療育能力を底上げしたい。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	12		職員一同が子供達に愛情をもって接することで細やかな気づきを得ることができ、アセスメントや支援計画に活かしています。	療育の学術的な知見をもとに実効的な経験を蓄積していくこと。直感も大事だが、学術の裏打ちをもって確かな力にしたい。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12		いろんな職員の意見を集約して、多面的にこどもの支援分析をしている。	子供たちの利益は、多元的で複雑な系による価値観により定まるので、独りよがりにならないよう価値観を正しく定める必要がある。
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12		共有している。計画に沿った支援をおこなっている。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	12		フォーマルなアセスメント、インフォーマルなアセスメントにズレが生じていないか注視している。	日々の観察は、観察者の理解の深度、センスなどにより内容が異なるため、油断なく新鮮な観察をし続ける必要がある。
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	12			継続的な観察が欠かせない。利用時間の少ない利用者に適切な設定ができるように、経験と理解をより深め続けたいといけない。未知の学術分野の研究もとりいれ、迅速な気づきを得られるようにしたい。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	12		チームおよび他職員もかかわって、みんなで立案している。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	12		している。プログラムについては、利用者の興味をひきたのしい内容を選んでいる。教材を自作してかわいいものを使っている。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	12		指先の訓練、発語、運動機能、数の概念、情操育成、生活習慣など、個性に応じ伸ばせるところを個別に療育しています。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	12		確認、支援ともにチームでしています。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	12				
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12				
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12				
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12				
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	12		しています。 関係機関と良好な関係を構築することに努力しています。		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12		子供たちが現在および将来において、社会で共存して尊重される社会の実現は、当法人の願いです。連携施設等との情報共有、総合理解の促進には注力しています。		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12				
	28	(28～30は、センターのみ回答)					
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答)				はい。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	12				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	12			幼稚園等との接点が得られる機会において、交流しています。こども達について、情報交換しています。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12				
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	12				
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12					
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12			普段からのコミュニケーションを大切にしてい、思っていることを話してもらえるように心がけています。		
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	12					
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12					

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	12		
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	12		Instagram等を活用して、保護者に対して、子供達の療育風景を可視化しています。特に注力しています。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12		特に注意して管理をしています。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	12		
	非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	12	
46		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12		
47		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	12		子ども達の持病等については、最重要の留意事項で、職員で共有している。
48		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	12		
49		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	12		運動療育においては、子供たちの能力に応じて安全配慮している。施設にクッションなどを施している。
50		子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	12		
51		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。			ヒヤリハットアンケートを定期的に行っている
52		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	12		虐待とはなにかを考えることをしています。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	12		身体拘束について、事業所としてマニュアルを作成して研修しています。	